



2026年2月18日

日本鉄道労働組合連合会

ジェイアール・イーストユニオン第10回定期中央委員会

魅力ある組織・運動と持続可能なJR産業となる賃上げを!

ジェイアール・イーストユニオンは2月8日、東京都内で第10回定期中央委員会を開催し、2026春季生活闘争をはじめとする当面の活動方針を確立した。

主催者挨拶を行った小林徹志中央執行委員長（JR連合副会長）は、第一の課題として、連續して発生したJR東日本の首都圏における大規模輸送障害やグループ会社の不正受給等の問題を取り上げ、「会社は『究極の安全』をめざすと言っているが、その土台が揺らいでいる」と述べるとともに、「職場最前線から安全を創り上げ、信頼を取り戻そう」と呼びかけた。また、2026春季生活闘争について、JR東日本グループの持続的な発展に必要な「人財の確保・定着にむけ、継続的な賃上げをめざす」との強い決意を示し、「JR連合の統一要求ベア12,000円に3,000円を上積みする」旨提起した。



小林委員長

その後、JR連合の上村良成会長から「イーストユニオンは絶対に安全は譲らないとの強い姿勢で臨んでほしい」と提起するとともに、今次春闘における満額回答、そして衆議院議員総選挙における推薦候補必勝に向けた取り組みを要請した。



上村会長

執行部からは「15,000円のベア要求」「夏季手当3.1ヶ月分要求」を軸とする今次闘争の要求方針等、当面する活動方針が提起された。これに対し、3名の中央委員から、今次春季生活闘争に対する意見や技術継承に係る課題、若手を中心とした組織強化・拡大など、今後の運動に対する意見等が出された。

執行部答弁後、集約答弁を行った川口直人書記長は、「安全を基礎に組織の強化・拡大を図る」との決意を述べた上で「今次闘争については、「組合員の奮闘に応え得る賃上げをめざして闘っていく」と決意を述べた。その後、すべての議案が満場一致で採択され、小林委員長が団結がんばろうで委員会を締めくくった。